

長野高専後援会 長野支部だより

発行責任者

支部長 塩入 哲

編集 編集委員会

令和5年度

学年別懇談会開催



2月3日(土)午後1時30分からチサングランド長野において、59名の会員の出席により令和5年度学年別懇談会が開催されました。

御来賓の濱口直樹副校長・渡辺誠一副校長から学校情報をご紹介いただいた後、学年別の懇談が行われました。懇談会では保護者からの質問に各学年担当の先生方から丁寧にご説明をいただきました。

懇談後は同会場において懇親会が開催され、御来賓の7名様を含む55名が参加し、12階からの眺望を愛でながら楽しいひと時を共にしました。

学校情報

日頃、多大なご支援をいただき熱く御礼申し上げます。コロナ禍から落ち着きを取り戻しつつ、学校の運営をしております。本年度は国際交流も例年どおり行ってきております。入学式ができなかった上級生もいますが、本年度は入学生、保護者、来賓の

方が体育館に入っていくことができました。

実力テストは入学式の翌日になりますが、後援会の皆様からご支援いただいてTOEIC-IP及びTOEIC Bridgeを実施しました。

1年生と3年生の特別研修ですが、1年生は入学したばかり、3年生はクラス替えをしたばかりということで、親睦を深めるということでバスを利用しながら学内外で研修を行いました。ゴールデンウィークにかかりますが授業公開には5日間で175名の方にお越しいただきま



濱口直樹 副校長
(教務主事)

した。昨年度までは事前に予約をしていただき人数の把握をしていましたが、本年度は例年どおりの実施となりました。

クラスマッチも学生会の企画で新しい種目を加えながら実施しました。

5年生・専攻科生が1・2年生に主に数学と物理を教える校内学習塾は40講座あって、勉強の仕方や意識を学ぶこともできてとても効果があり、引き続き実施していく予定になっています。

工嶺祭は4年ぶりに通常どおりに戻りましたが、5年生が1年生の時に体験して以来ぎりぎりに実施できたものです。

後期の授業公開には5日間で103名の参加、秋の参観ツアーには中学生と保護者に授業の様子を見ていただきました。

台湾への海外研修は学科改組前からの計画でしたが、ようやく初めて実施することができました。2年生が欠席者なしで参加しました。

同じ時期に企業見学があり3年生は2日間日帰り、4年生は2泊3日県内外で実施しました。2年生から4年生がいない間、1年生と5年生の交流会を行い、1年生は自分が勉強したい分野を決めていくために5年生の話聞く機会を作っています。

来週2月5日からは後期の試験があります。

学科再編

令和4年度から学科が再編され、現2年生と1年生が工学科の所属となっています。工学科は2年生進級時に「情報エレクトロニクス系」「機械ロボティクス系」「都市デザイン系」の3つの系に分かれますが、分かれる前の専門科目として「ものづくり基礎工学」「ものづくり基礎実験」という、どの分野に進むにしても必要となってくる基本的な授業があります。

系の配属は昨年度は希望どおりが98%、本年度は99%となっています。昨年度は入学時に志望が決まっていなかった学生が15名、本年度は45名となっています。現2年生へのアンケートでは30%が入学してから系を決めたり変更したりしています。今までは学科を決めて入学していましたが、入学していろいろな話を聞いて進路を決めるようになってきました。

2年生からは系を超えたグループでエンジニアリングデザイン等の共通科目の授業がありません。



渡辺誠一 副校長
(学生主事)

学生会などの学生の活躍と、進路状況と合わせてお話しします。

学生会は学生の皆さんがみんなでワイワイ楽しくやりましょうと企画をしています。七夕企画では願い事をしたり、学生食堂でかき氷の配布をしたりして好評でした。

8月には全国大会の壮行会を行い、選手にも頑張ってもらいました。今年の全国大会は関東信越地区が担当でしたが、来年度は北海道が会場になります。後援会のご支援をいただきながら参加させていただきたいので、よろしく願います。

10月に工嶺祭が無事に実施できました。4年前に実施した引継資料がほぼないなか、先輩から聞いた話や、映像制作部が残っていた記録映像などを参考に実施することができました。クラス展示では電子情報工学科5年生のゲームが学校長賞を受賞しました。体育館では本格的な音響機器を借りてきて音楽祭を実施することができました。高専焼きをお求めいただいた方、「高専」の判が押してなくて申し訳ございませんでした。

11月に焼き芋大会を行いました。近くの公民館から焼き芋の窯を借り、200本くらい焼こうと計画していたのですが、1日で100本くらいしか焼けなくて、結局2日掛かりで実施しました。

12月のイルミネーションはテレビ報道もされ、地元の方が写真を撮りに来て好評でした。

課外活動では、本年度はビジコン同好会が設立され、様々なビジネスコンテストに応募しました。その他、女子学生を対象にした高専GIRLS SDGs×Technology Contest (高専GCON) に2年生が3名参加し、村田製作所賞を受賞しました。サイバーセキュリティ同好会がKOSEN セキュリティコンテストで優勝しました。

話は変わりますが、無断欠席者がいた場合に本人や保護者に連絡をとる訓練を11月にしました。後期の中間試験の前でしたが、保護者の方

にもご協力いただき学校又は担任に連絡していただきました。調査した結果、出席率が91.9%(理由あり欠席63名)でした。これからもよろしくお願いします。

4年生に進級する学生への奨学金について案内が出始めていますので、学校ホームページ「諸経費・奨学制度(経済的支援)」をご覧くださいければと思います。

進路状況は、5年生の年度当初は昨年度と同様に就職4割、進学6割でしたが、先月末現在でほぼ同じような割合になりました。専攻科は進学希望、就職希望が全員決まりました。専攻科は1年後期に長期インターンシップがあり、そこに決まる学生もいて、早い決定になっている状況です。

これから行われる就職・進学のイベントは、2月23日に4年生を対象に進路説明会というかたちで保護者面談を行います。就職希望者には合同企業説明会にも積極的に参加するように勧められています。

学年別懇談会



1 学年
学年主任
奥村紀浩 先生

今年度を振り返ると、1年生は「系」の選択を中心とした学校生活だったといえるのではないのでしょうか。最終的には、情報エレクトロニクス(IE)系80名、機械ロボティクス(MR)系85名、都市デザイン(CE)系39名となり、ほとんどの学生が第1希望の系に決まりました。最初の調査ではIE104、MR55、CE44とIEが目安の80名を大きく超過していましたが、2回目の調査ではIE90、MR68、CE46となり、5年生の先輩との懇談会の後の調査ではIE74、MR92、CE38となり、最終的な決定に至っています。このような人数の変動をみてわかるように、1年生にとって系

の選択は非常に大きな存在でした。

これから最後の試験がはじまりますが、系が決まったことで力が抜けてしまう学生が出てこないことを願っています。今年度入学の1年生の特徴としては、長期欠席者が少ないことで、授業についていけなくなったり、高専の授業に興味を失ってしまうケースが少なく安心していますので、是非このまま順調に進級していただければと思います。

また、今年度は保護者の方との連絡を密接に行うことを重視しました。「さくら連絡網」とおして各組の担任が持ち回りで何かイベントがある度に話題提供を行っていますので、少しでも学校の様子や雰囲気は保護者の方にも感じてもらえたらと考えています。

保護者から

Q 自分の子供は欠席が多く、無事に進級できるか心配しています。今からでも何かできることはないでしょうか。

A 実験科目は出席を厳密にとっているが、事情次第で補修や補講を受け、レポート提出で評価される可能性があります。通常の講義科目は、まずは試験を確実にクリアすることを目指してください。

Q うちの子は国語が壊滅的で、数学や英語も赤点でした。本人もショックを受けているようで、自分で勉強しても授業を受けてもわからないようで、どうしてよいか困っています。

A 提出物などは確実に提出したり、やれるところからやっていきましょう。たとえば、国語の中でも古文より現代文の方が得意といったことがあるでしょうから、まずは、少しでも得意なところから取り組み、あきらめずに学習を継続することが重要だと思います。

Q 私の子供は中学では成績が上の方だったが、高専に入ってから下の方になってしまいました。本人も弱気になってしまい心配しています。校内学習塾で対応してもらえる可能性はあるでしょうか。

A 校内学習塾は今のところ数学だけが対象で、成績が下の方の学生から声がかかります。

Q 英語の授業内容に疑問があります。教科書はよいと思いますが、記憶や文法が中心の学習なので、もっと会話を中心とした学習にならないでしょうか。

A 現状では5年間トータルで英語の学習内容を考えていますが、今後検討していきたいと

思います。2年生になるとグローバルエンジニアリングという授業で数学を英語で実施しますし4年生からはネイティブの先生が授業を行います。

Q 英語に関して、高専では、英検を勧めているのでしょうか。それとも TOEIC を勧めているのでしょうか。

A 低学年のときには英検で、3年生以上には TOEIC を勧めています。英検は中学からの学習内容と相性がよいですし、TOEIC は大学編入試験に課されるケースが増えています。

Q 大学の編入には TOEIC の受験が課されることが多く、高専で TOEIC の試験を受験できると助かります。上の子供のときに受験会場の空きが北海道と沖縄しかなくて困ったことがあります。

A TOEIC-IP は高専でも実施していますが、TOEIC 公開テストは指定された会場で受験する必要があります。TOEIC 公開テストの結果が必要なケースがありますので、早めにスケジュールを確認していただくのが最も確実な対策だと思います。

Q 工学科になり学科を決めずに入学していますが、そのためか私の子供は将来の進路がなかなか見えてこないようで悩んでいるようです。

A 系が決まってくれば将来像がみえてくると思います。高専には20歳を超える先輩もいますので、様々な学生から意見を聞くことができます。部活や文化祭などの活動を通して知り合った先輩から情報を集めたり、先生に相談してみるのも手だと思います。

Q 高専では工学以外の国語などの授業も実施しているが、あまり意味がないのではないのでしょうか。せめて、それらの授業の成績が進級に響かないようにならないでしょうか。

A これからのエンジニアには広い視野が求められています。他分野の専門家と一緒に働くためにも、工学以外の国語や、地域の地域に関する知識などもチームで働くためには必要なことだと考えています。試験を課しているのも真剣に学習して欲しいという思いからで、進級に響かないとなるとまじめに受講する学生が減ってしまい、授業全体の雰囲気にも悪影響を及ぼしかねないことを懸念しています。

Q 親には進級できるための正確な情報がきていないので、教科の数や点数などの条件に関する情報が欲しいです。

A 留年に関してご心配とのことですが、進級要件や再試験の条件については学生便覧に記載されているとおりです。この機会にお子様とお話をさせていただきながら条件を確認していただくのはいかがでしょうか。



2 学年
学年主任
林本厚志 先生

台湾研修旅行について

先)11月に3泊4日で台湾に研修旅行に行った。最終日に体調を崩した学生が別行動で帰ったというのがあったが、大きな問題もなく、うまくいったと思う。

気になったのは、学生が団体行動に慣れていない点だった。中学生の時にコロナが始まって以降、入学式とか始業式とかで体育館に並ぶとか、遠足で皆で並んで歩くとか、そういうことがなくなってしまっていて、今回の研修旅行がコ

コロナ以降初めてで、しかも海外でということで、団体で動くということが、かなり難しいということはある。例えば空港で点呼をとるときなど、「並びなさい」と呼びかけてもうまく並べない、並び方を知らない—ということがあった。学生が「できない」ということがわからなかった、行って初めてわかったので、対策もできなかった。

いくつか研修旅行に行ってみて反省点があるが、例えば初日に高専からバスで空港に行き、台湾に着いたのが時差の関係もあるが午後11時とか11時半とかで、ちょっと遅すぎるかなと感じた。早い時間の飛行機に乗ることもできるが、その場合新幹線を使わなければならない。大きな荷物を抱えた200人も学生が一斉に新幹線に乗ったり、さらに乗り換えたりということが大変だと思うので、やはりバス移動にならざるを得ない。どうにかしたいとの思いはあるので、来年以降考えたい。

2日目午前中に現地の高校生と交流会があったが、学生が現地の高校生に鶴の折り方を教えて、それで千羽鶴を作って交換しようということをやったが、外国特有というか、予定以外のことが起こるケースがあった。現地の校長先生のあいさつがあるとのことだったが、理事長のあいさつもあったり、どんどん時間がおしていった。そういうことがわかっているならば、あらかじめ時間を見込むこともできるが、初年度でわからないので難しかった。来年以降は反省を生かして、ある程度余裕をもって交流できると思う。ただ交流自体は非常にうまくいったと思う。台湾の学生も日本には興味があり、アニメの話などで盛り上がったり、向こうの学生は日本語を話せる人もいて、それで交流自体はよくできていたと思う。今回の交流がきっかけとなり、その高校からは4月に学生16人と教員2人が高専を訪問することになっている。

ほかの反省点としては、バスの移動が長かったということがある。ホテルが台北市内から外れたところにあつたので、バス移動が多く、渋滞などでなかなか時間通りに動けなかった。また学生も海外研修は初めてで、わからないことが多く、お小遣いをどれくらいにするか、どんな服を着ていくかなど、皆さんも相談を受けたかもしれないが、行ってみないとわからないことも多く、この学年が初めてなので、だれも教えてくれないということがあるので、今度2月に、2年生3人ぐらいに1年生に体験談を話してもらうことにした。

そういったことで、経験を重ねノウハウが蓄積していけばと思う。その体験談も、どこに行ったとか何をしたではなく、実際に行ってみなければわからない、「お小遣いいくら持っていきどれくらい使った」とか、「こんな服持って行ったけど、やっぱり半袖がもう少し欲しかった」とか、「これくらいの大きさのスーツケースを持っていった」とか、交流会のときに持っていくお土産の品は何がいいとか、そのような話をしてもらうことになっている。台湾は交流会などでお土産を交換するという文化があるらしいが、日本はそういったことがなく、学生たちが非常に悩んでいたもので、「今回はこういったものを持っていった」など、行ってみないとわからないことを中心に話をしてもらおうと思っている。

それから費用がだいたい15万円くらいだったが、15万円という金額設定は、いかがでしょうか。

保) 知り合いに「15万円」と言ったら、それは安いといわれた。

保) 5年前はもう少し安かった。5つ違いの姉が同じような日程で台湾に行ったが、11~2万円だった。

先) いまはすべてのものの値段が上がっていて、バス代とか燃料代とかで、こういうことになっている。

保) 高いとは思っていない。

先) では毎年これくらいを目標ということではないか。

保) 日程的にもう1泊できると楽しめるかなと思う。娘も高校で台湾に行く予定だったが、もう少し長くて・・・結局コロナでいけなかったのによく覚えていないのだが、今回は短いと思った。

保) 前後1日ずつは移動なので、実質2日間ですよ。

先) 初日の到着時間が23時過ぎで、最終日も全く使えない日程だったので、もう1日あってもいいのではないかという意見はあった。そうすると15万円では収まらないことと、4泊5日ということになると、出発が1日繰り上がり月曜日になり、他の学生の授業にも差しさわりが出るなどの問題もあり、なかなか難しい。ただ一番の理由は金額なので、もっと出してもいいということであれば、実現は可能だと思う。

保) うちの子供はバスの移動が苦手で、いつも酔ってしまう。バスの移動が長くてつらかったと言っていた。日程に余裕があれば、そういったこ

とも解消できるのではないか。

先) 東京に1泊して、朝台湾に向かうという意見もでた。結局1日増えるが、それもありだとは思ふ。ただその場合も費用はかさむ。

保) みんなどれくらいお金を持っていくのだろうというのがわからなくて、友達に聞いてこいと言ったけど聞いてこなかった。持たせたら「全然足りなかった」「友達はこんなに持ってきた」と言われた。目安がわからなかったの、何にいくらかかるかなど分かるかと思った。

先) 旅行会社からは、1万円あれば余裕ですよと言われていたが、それでは足りないだろうなとは思った。

保) 台湾は基本的には現金なのか。

先) 基本的には現金だが、大きなデパートなどではクレジットカードも使える。

保) カードを持っていく学生はいたのか

先) たぶんいなかったと思う。

保) 電子マネーとかあれば、現地でチャージして使うこともできるが。

先) なかったと思う。

保) 台湾自体が現金主義だという話は、説明会で聞いたので、ちゃんと現金を持たせないといけないと思った。

先) 両替自体は現地のガイドが常に対応していたので、足りなくなったらすぐに両替はしてもらえた。お金さえあれば困らないという状況ではあった。そういう意見が出るかとは思ったので、来年行く1年生に体験談として話してほしい。

保) 両替して使いきれなかった分は、台湾のお金を持ち帰ることになるので、その駆け引きも悩んだらしい。でも1万円では足りなかったらしい。

先) 15万円の中から1万円分は両替して渡しているの、それ以外にいくら持っていくかということだが、僕自身わからなかったの、友達と相談して決めるように話した。

保) うちのデビット機能付きのクレジットカードを持っていった。ガイドさんから使えるところを聞いて使っていたら、最終日に両替したお金が残って、カステラとか大量に購入してきた。

先) ほかに何か要望とかあるか。来年行く1年生に伝えたい。

保) 何がいくらとか、相場感が事前にわかっていたら、いくら持たせるかの参考にできる。子供たちも自分で食事をしたりするケースがあったので、「ラーメン1杯いくら」とかが分かっているとうれしい。

先) だいたいの相場ということだと、ガイドブックを各班に1冊渡している。

保) 子供たちが見ると思いませんか？(笑)

先) D&S といって向こうの学生にいろんな所へ連れて行ってもらうというのがあったが、ガイドブックを見て計画するように渡してあったので、見ていないことはないはずで、調べようと思えば調べられたはずだが、ものの相場がわかるかというの、確かにそうだと思う。台湾は外食が一般的で、朝ごはんも外食するらしい。そういうところだと結構安く食べられるらしいが、ちゃんとしたところだと、やはりそれなりだ。

保) コンビニがあって、結構日本のものも手に入るらしい。台湾の学生とお土産を交換する際に「これ台湾にも売っているよ」ということもあったらしい。

先) お土産を何にするかという悩みに通じると思うが、旅行会社によると、台湾の人はグミが好きらしいということで、持っていった学生もいたし、大袋の中に小袋に分けられたお菓子を持っていったりしていた。それが台湾にあるかどうかはわからないし、聞くわけにもいかないので、何を持っていくか決めるのは大変難しい。ただ交流の手段としてお土産を交換するので、台湾にないものを持っていかなければいけないわけではない。

保) 相手がどんな人が全くわからず、男か女かもわからない中で、決めなければならず悩んでいた。結局小袋に分けられたお菓子を持っていったが、長野県限定とかそういうのを選んでいった。あと水について担任からの説明では、日本と違って水道水が詰められたものも売っているので注意したほうがいいといわれたが、お土産交換でもらってきた水が大丈夫なのかわからず、まだ冷蔵庫に入ったままだ。

先) 旅行会社からはペットボトルに入ったものは大丈夫と言われていたので、もらったものやホテルに置いてあったものは大丈夫だと思う。飲んだ学生もおなかを壊したといったことは聞いていない。おなかを壊したとすると、こちらから薬を渡すことはできないので、自分で持っていったものしか飲めない。薬を買うとしてもどんな薬なのかわからないし、その辺りは難しいところだ。

クラス替えについて

では、研修旅行の話はこれくらいにして、3年

生になるときにクラス替えがある。3つの系に分かれるが、MR系は2クラス、IE系は電気系と情報系、それとCE系の5つのクラスに分かれる。これで2年間同じクラスだったのが、バラバラになる。担任も3年からは専門学科から決まる。希望通りにいかなかった学生もいるが、そういう学生をゼロにすることはできない。今の3年生以上も学科別に入っているが、もともと第1希望の学科に入っているかというところでもない。この学年が工学科として再編して初めてなので、手探りのところも多い。担任としてはまあまあうまくいっているのではないかと思っているが、保護者の皆さまの意見を聞かせてほしい。

保) 息子はいよいよ最近ようやく慣れてきたようだ。これでクラス替えがあるので、またひと波乱ありそうだ。研修旅行に行った時も、2日目くらいまではLINEをよこしたが、3日目の午後くらいから連絡がなくなったので、やっと楽しめているのだなと思った。工嶺祭でサッカー一部は唐揚げの屋台をやった。代々2年生が計画をたてて実施するようになってきているらしいが、過去の資料が何にもなくて、どれくらいの量を揚げて、いくらで販売するとか5年生の記憶もおぼろげで、本当に大変だった。

保) 家ではゲームばかりしている。寝ているとき以外はゲームをしている感じだ。高専入学まではスマホもPCも与えていなかったのだから、高専に入ってからタガが外れた感じでひたすらやっている。来週のテストが一番の心配。私が来年3年生の評議員でいられるのか心配だ。

「周りもみんなそうだ」ということもあるようだが、自分が学生のころとは全然違うので戸惑う。学科再編で工学科の初年度ということもあり、一部を除いて希望通りの系に進むと聞いた。この先に興味が変わっていった場合はどんな対応があるかなど、この学年が目安になっていくと思う。4人の学生が希望通りではなかったようだが、第2専攻もあるようなので、希望の系もサブで選べると思うし、社会に出ればCEにIEの要素もあるので、非常にいい試みだと思っている。われわれ子どもの代が「実験台」ではあるが、これから作っていくという意味では、非常にいいと思うので、よろしくお願ひしたい。

保) 成績が芳しくない。わからないことを先生に聞けといっても聞いてこないが、先輩方を交えてみんなでやる環境は聞きやすい分かりやすい

らしくて、校内学習に積極的に参加している。系の選択については、うちの子も最初は情報と聞いていたが、人気があることと勉強の中身も考慮して「自分は電気かな」ということになった。最初に話があったが、やりたいことと違うところに決まってしまうたら、挫折してしまわないかというのは心配だ。

先) IE系では電気系と情報系に分かれるが、たしか全員が希望通りになったはずだ。

保) だんだん情報が減って、電気に移りバランスよくなったらいい。

保) ロボコン部に入っているが、部活に一生懸命で帰りも遅くなる日が多い。部活が終わってからでないと勉強できないことになっているが、それは特殊な状況なのか。

先) 5年間部活ばかりやっている学生もいるし、ちょっとまずいと思って途中でやめる学生もいるが、部活ばかりやっているからといって成績が悪い学生は、そんなにいないイメージだ。

保) 大学に編入したいと思っているが、部活の影響はないのか。

先) ロボコン部で5年間やっていて大学に編入した学生もいるし、家庭の事情もあるだろうが、部活やめて勉強したからといって、成績が上がったという話は、あまり聞かない。

先) ロボコンだと、今は3年生がメインで、4、5年はご意見番という形で取り組んでいると思うし、ハイシーズンとオフシーズンがあるので、その辺りを工夫してやってほしい。ほかの運動部だと、高校の大会が中心になるので、3年生の夏の大会が終わると引いてしまう学生もいるし、そのまま高専大会に出続ける学生もいる。自分も卒業生だが、陸上をやっていて、4年生の後期半年間は休んで、進路が決まったらまた出るというようなことをしたので、そのような形でやっていけばいいのではないかと思う。

保) 先ほど英会話の勉強をやっていると説明があったが、2年生もやっているのか。どんな感じなのか。

先) 2年生でやっている。1年間通して英語の授業と数学の問題演習を1週間ごとに交代でやっている。基本的に15回が英語の授業で、全部で30回受けている。

保) 娘はGコンにでたが、その前にタイにも行っている。いつもゲームばかりしていて何も話してくれないので、なんで行ったか全然わからない。何の研究をやったか説明されても全然わ

からない。せめてGコン見にいけばよかったと思ったが、「来るな」と言われて行けなかった。学校での活動が全然わからないので、教えてほしい。

先) タイに行ったのは自分から「行きます」って言ったからだ。Gコンもそうだ。環境の先生と一緒にやっていて、Gコンは、その辺にあるもので水をきれいにするというような発表をした。それも自分たちで決めてやった。

保) 皆さんのお子さんは部活なり同好会に入っているみたいだが、うちは部活も何にもやっていなくて、学校と家を往復しているだけで、だからといって勉強するわけでもない。なおかつ先輩後輩の関係が築けず、友達との関係しか築けないことが不安でもあるし心配だ。先輩や友達からの情報がすごく大切に、そこが将来にもつながると思うので、コミュニケーションの場を自分から求めようというタイプではないことが心配だ。

先) そうですね。

保) 県外からきているので、寮に入っている。勉強しているかどうかはわからないが、たぶんしていると信じている。テストの結果を見て「今のところは大丈夫」だが、親のほうがやきもきしている状況だ。微分積分がとてもしんどいので、お願いします(笑)

保) うちの子もびっくりするくらい勉強してなくて、オンラインでゲームをしているが、リビングでイヤホンもせず、オープンな状態でやっているので会話が全部聞こえる。サッカー部の子かな、クラスの子かなと思って聞いていると、ゲームしながらいつの間にかレポートの書き方を聞いていたり、と思ったらやっぱりゲームやっていたり、いつの間にか数学のやり方を教わっていたり、面白いと思いつつ聞いている。ほかの家庭のお子さんは見えないところで、同じようなことをやっているのではないかなと思う。

保) うちが学校が近いが、7時近くまで友達と学校で勉強してくる。休みの日も図書館で勉強できたり、すごく勉強しやすい環境でありたいと思っている。スマホでゲームやったりもしているが、やることはやっている感じで、わりと自由に楽しく通わせてもらっている。部活も2年になってあまり行かなくなったが、バドミントン部で大会には公欠で出ている。公欠で受けられなかった授業があることが、少し心配している。

先) 公欠というのは、授業を受けたことになっているので、友達にノート見せてもらうなどして、カバーしてほしい。わからないことを先生に聞きに行くというのは、もちろん大丈夫だ。

保) インフルエンザなどでお休みになる連絡も、割と直前で来ることが多く、もう少し早く連絡いただくとありがたい。オンライン授業があるかどうか、つないでみてやっていないので、そこで「ない」と判断するような状況だ。

先) インフルエンザで休みなったとか、学級閉鎖の場合などは突然決まるので、事前に連絡はできない。「インフルエンザで明日から休みになります」というような場合は、授業によってはオンラインで受けられるものもあると思うので、担任なり担当の先生に頼んでほしい。オンラインで対応可能な授業なら対応しているケースもあるし、オンラインができればプリントを配るとか別の対応もできる。ただ急になるとなかなか難しい。

先) 寮生も「全員帰りなさい」という対応をしているので、その日の授業はできない。

保) うちの子も高専に入ってからスマホ、PC、iPadなどを使い始めたが、自分でも「すごい」とつぶやきながら使っている。やっぱりゲームばかりやっているので、心配している。工嶺祭ではタピオカの販売を頑張っていた。私もお手伝いをして、お茶出しをしたが、1日目のお昼ごろちょうど雨が降ってきて、お客さんが一気に増えて大変だった。

保) うちも普段家にいないので、何をしているかわからない。基本的に寮はゲーム禁止でテレビを見る習慣もないし、この間帰ってきたときに系の選択は大丈夫なのか聞いたら、「大丈夫」とのことだったが、先ほど先生のお話を聞いて納得した。送ってくるのは寮のメシの写真だし、ほとんど家には帰ってこないのが、よほど居心地がいいのだと思う。





3 学年
学年主任
百瀬成空 先生

3 学年はいわゆる『中だるみ』『先が見えない』一年となりがちです。この先、自分の考えを持って行動していくためにはまず『知る』ことが必要であり、今年の3年生も多くの事を知る事ができた一年になったと思います。特別研修やクラスマッチをとおして学科別クラスの新しい仲間のことを知る事ができ、教室もにぎやかになりました。工嶺祭では技術やアイデアを出して中心になって盛り上げてくれる学生もいれば、役割分担を伝えればしっかり務める学生も多く、ひとつのプロジェクトを遂行するにはいろいろなタイプの人材が必要であることも知る事ができたと思います。

11月の進路セミナーを皮切りに、進路について考えることも始まりました。社会のこと、企業のこと、仕事のこと、社会人としての立ち振る舞いのこと、そして自分自身のこと。これら多くのことをこれからどんどん知っていき、行動選択の軸足としてもらいたいと思っています。良い意味で驚いたのは、通常授業ではない日に開催した進路セミナーに、開始5分前にはほぼ全員が出席し着席待機していたことです。未来に対する意識の高さを学生達から感じる事ができた出来事でした。

私は、進学（先）、就職（先）は、自分がどうありたいかを選択基準のひとつにしてはどうかと考えています。巨大企業の中で優秀な社員達とのぎを削りながら、さらにはどのような立ち位置に立って輝いていくのか、それともたとえば地域企業の中で「この人あり」と重宝されながら活躍していくのか、などを考えると、どんな

能力が必要なのか、さらに学ぶべきなのか、なども見えてくるのではと思うのです。11月の企業・現場見学ではそれぞれの学科の特色が出た見学先へと分かれたましたが、様々な業種・規模の企業を見聞し、そのことを考えるきっかけになったのではと思います。

4 学年は『知った先、どうするか』を選択し動く学年となります。実務訓練（インターンシップ）で、社会との交わり方、自分自身に対する意識（低い自己肯定感から脱却し自信を持てるようになる）、目指す進路の方針とその準備など、大きく考え方や動きが変わってくると思います。ただ、それ以上に大切にしていってほしいのは、日常において、挨拶を交わすこと、自分の周りの人や居場所を大切にすること、気づいたらすぐに動くこと（気づけるようアンテナを張っていること）などの、人としての魅力を育てることだと思っています。これらの心掛けを積み重ねていって、「この人と仕事をしたい」と思ってもらえるような大人へとステップを進めていってもらいたいと願っています。

Q 進級に関しての不安

A 試験の出来不出来はどうしても差が出ますが、肝は提出物だと思っています。提出物が出せていれば、試験前後のケアに対応できる時間が確保できます。提出物にいつから取りかかるかは学生のコントロールが効く部分だと思っています。ちなみに私のクラスでは、提出物を出さないことのメリット・デメリットを伝えたくて、どちらを選んでも構わないと伝えました。言われてから動く、言われるまでは大丈夫、というレベルから、自分で動くことを選ぶというレベルへ持ち上がって欲しいと思っているからです。ただ、今年のクラスメートがもともとたいへんしっかりしており、私の指導が効いているのか効いていないのかはあまり手応えが見えませんでした。

また、進級しかないと思いつめるのでは無く、特に3年生は他の進路にも進めるのだと知ってもらい、どちらが自分の将来が明るいのかを考えながら行動選択をしてもらえればと思っています。あとは提出物が出せなくなるような体調心調にならないよう生活リズム（スマホ、夜更かしが鍵ではないでしょうか）や食事を整えていってもらうことも大切だと思っています。

Q これから進路を考えていくにあたって就職、進学などのタイミングで考えていけばいいか、そのための準備はどんな段階で進めていけばいいのか？

A とにかく今からでも多くの事を知って引き出しを増やして欲しいと思っています。そう



しておくことで然るべき時に自然と動き始められると思います。高専キャリアサポートシステムにまずは入り、求人票を眺めるところから始めてみてはどうでしょうか。まずは一社をじっくり眺め、それを数社と繰り返していくと比べることが始まり、さらに増やしていけば自分の中で業界の地図もできていくと思います。そこから web サイト、競合他社の情報へと研究を拡げていくと、学校推薦だけでなく自由応募へのチャレンジも見えてくるかもしれません。進路支援室に行けば先輩達の試験報告書も見ることができます。調べれば調べるほど次の一手がどんどん見えてきます。就職活動のタイミングは会社によって様々ですが、これだけ拡げておけば、すぐに動き出せるはずですよ。

進学については、進学先で自分はどんな勉強、研究をしたいのかで選ぶのが理想です。4年生の冬には大学からの説明会も開催されますが、できれば3年生の春休みからでも大学の web サイトを眺めてイメージを作り始めてもらいたいと思います。4年生の夏休みにはオープンキャンパスに行くのも手です。勉強は難関校にチャレンジするのであれば4年生の夏休みから少しずつ始めることを奨めます。先輩の話聞く機会もあるかもしれませんが、それを待たずに動き出せる方法として Youtube も手かもしれません。編入学の体験談、お勧めの参考書など多くの情報を得ることができます。取りかかる科目は大学によって異なりますが、数学と物理は多くの場合で必要となりますので優先順位は高いと思います。また、英語の試験に代わり TOEIC のスコアの提出を求められるケースが非常に多くなりましたので、TOEIC ハイスコアに挑戦することも有効です。進学の情報（試験の時期や科目など。ただし年度が違うのであくまで参考程度）も web サイトや高専キャリアサポートシステムから知る事ができますし、出題された問題も進路支援室で先輩達の報告として閲覧することができます。

Q 5年生で進学／就職を切り替えることは可能か？

A 4年生の3月に就職／進学のどちらで指導を受けるのかの意志確認をおこないますので、そのときまでには親子ともに意志を固めておいてほしいと思います。活動が思うようにいかずやむなく方向転換することの成否は、転換先の企業・大学の試験時期・難易度にもよりますが、学力試験がある大学はたいへん厳しい展開となりますので、どちらかと言えば進学から就職に切り替えるパターンの方が多いです。



4 学年
学年主任
岡田学 先生

4年生の学生さんから進路希望調書を提出いただき、例えば機械工学科では進学希望が約 50%、就職希望が約 45%と例年通り進学と就職が半々となっている。進路説明会後の3者面談などを通し今後、進路について具体的な相談をしていきます。就職に向けては、経団連の就職協定があるので就職活動スタートは3月から開始し、例年だと6月頃までがピークとなる。少子化の影響もあり、企業側も採用活動が長期化するところも多い。第一希望が不合格でもチャンスは十分にあるので、第二希望以降についても担任と相談し決めておことをお勧めします。また、職場の雰囲気就職前に確認するためにも会社見学会に参加してからエントリーをお勧めします。進学に向けては、6～7月に編入試験が実施される大学が多いが、5月頃から始まる大学もあるので、学生が利用できる「キャリアサポートシステム」にて志望大学についての募集要領や受験時期、願書提出締め切り日等を早めに確認をしておいてほしい。

Q 編入について推薦の人数は決まっているか確認したい。

A 推薦人数の指定がある大学もある。推薦基準も明確な基準があったり、曖昧な基準（成績優秀な学生など）もあるので大学毎に確認が必用。曖昧な基準や指定がない場合は、長野高専の内部ルール「1年から4年の成績平均の上位 30%」を適用している。学校推薦で合格した場合は必ず入学するルールのため、学力受験とのスケジュールをよく考えて欲しい。専攻科への推薦基準は「4年の成績で上位 50%以内」としている。

Q 進学活動中に進学を諦め、就職に切り替える学生もいると思うが毎年何人程度いるか、またいくつくらい受験する学生が多いか確認したい。

A 例年1クラス1人程度は進路を変えるこ

とがある。進学希望者3～4校（本命、滑り止め、難関）受験する学生が多いので、受験日程などを考慮しスケジュールを立てて取り組んでいただきたい。秋頃でも募集をしている企業もあるため、その際は学級担任に相談してほしい。

Q 機械科の学生で食品関係の就職先を探しているが、どのような職種がありますか。

A 卒業生の職種は大きく3種類に分けることができる。①製品の設計開発する技術者、②製品を作るための技術の開発（生産技術）や、工場の設備を開発する技術者、③フィールドエンジニア、サービスエンジニア（機器のメンテナンス）など。このうち食品関係の企業では②の生産技術の技術者の求人を出していると思う。

Q 自分のやりたいことが決まっていないので、先生からアドバイスをいただきたい。

A 進路説明会及び3者面談を予定しているが、その後も面談など随時対応するので相談してほしい。

Q 就職の場合、高専に求人がある企業から選んでエントリーする事になるのか確認したい。A 高専に求人が無い企業についても、こちらから連絡をすれば採用活動をしている企業もあるため、学級担任に問い合わせてもらえれば確認する。

Q 進学について、志望大学への推薦が可能かジャッジいただけるタイミングはいつ頃になるか。

A 3月末には1～4年の成績がまとまるので推薦の可否については判断できる。

Q TOEICの点数は出願するまでに出していれば良いか。

A 出願までに出していれば良い。

Q 5年生の高専での過ごし方について、研究室やゼミに所属すると聞いている。

A 5年生になるとホームルームの教室がなくなるので、卒業研究の研究室で過ごすことが多くなる。

Q 就職する場合の推薦基準は進学と同じとなるか確認したい。

A 就職の場合は、基準は無く誰でも推薦を受けることができる。応募先の企業から学校推薦か自由応募かの指定があり、学校推薦の場合は合格したら必ず就職する必要がある。

Q 希望のゼミに入れるか不安に感じているが、ゼミの定員に達した場合どのように振り分けているのか確認したい。

A ゼミの振り分けについては、担任毎に基準を決めて対応している。全員から希望をとり、定員を超えた場合は成績で判断する学科もある。ど

のゼミに入るかは4月上旬に確定する予定。

Q 進路について、現時点で考えている希望を今後変更しても問題無いか確認したい。

A 現時点での希望なので、検討進めていくなかで変更していただいても問題ない。

Q 高専卒、専攻科卒、大学卒での就職についてそれぞれメリットはどう考えればよいか。

A 殆どの企業で高専卒は大学卒と同じ扱いをしていただいているが、一部企業では大学卒でないと就けない職もある。また研究職の場合、博士や修士が必要となることもある。



5 学年

学年主任

古川万寿夫 先生

5年生の生徒は、卒業研究発表が終わり、卒業論文をまとめているところです。卒業論文を提出して卒業になります。

今の5年生はコロナがあり苦労した学生だと思っています。オンラインに慣れたのは将来的にも必要だと思うのでよかったです。面と向かって話すコミュニケーションも大切にしています。

高専の5年間は悩んだり自分を見い出して成長していける5年間だと思います。みんな大人のコミュニケーションができるようになり成長し頼もしくなったと思います。社会でもやっていけるでしょう。

保護者から

Q 自動車の運転免許はどのくらいの生徒が取得していますか？

A 詳しくは分かりませんが、進学する生徒はあまり免許を取りに行っているという話は聞かない気がします。就職で免許が必要になってから取ってもいいと思います。

Q 就職してから離職する生徒はどのくらいいますか？先生は相談に乗ってくれますか？

A 離職率の追跡はしていませんがいます。相談に来てもらってもいいです。昔は来ている生徒もいましたが、今は就職サイト

もあるので、あまり相談に来る生徒はいないです。

Q 進学、就職、その他のその他はどんな進路ですか？

A 進学準備をする生徒や自営がいます。国でもスタートアップを進めていて、高専でも国に申請して資金をいただき、ソーシャルイノベーションセンターを立ち上げていくところです。これから自営で自分で起業する生徒が増えていくと思います。

Q 専攻科の生徒はいつから就職活動を始めているのですか？

A 1年生の12月から始めている生徒もいますがピークは2年生の3月から5月です。長期インターシップで行っていた企業に入る生

徒もいれば違う企業に就職する生徒もいます。

Q 高専で結局資格を取りませんでした。

取った方が良かったですか？

A 資格で就職が有利になる場合もあります。給料が上がる場合もあります。必要な資格は就職してから取ることも多いです。



後援会長野支部 役員退任の挨拶

長野支部長 塩入 哲

令和5年度長野高専後援会長野支部長を務めました塩入です。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行した事に伴い、昨年度まで自粛を余儀なくされていた様々な行事がコロナ前の形で開催できる事となりました。

総会・学年別懇談会後の先生方を交えた懇親会は、会員の交流とともに学校の様子を伺ったり、進路の相談等有意義な情報交換の場となりました。

また、工嶺祭における休憩所の運営は、経験者が5年生の保護者しかおらず、手探りの状態でしたが、過去最高の1,123名に利用頂き盛況の内に終える事が出来ました。

各行事に際して、事前の準備不足や連絡の手落ちなど、支部長としては力不足だったと思いますが、役員の自発的な行動に助けられ、また、評議員・会員の皆様のご協力のもと、一年を乗り切る事ができました。

後援会活動を通じて多くの方と知り合い、個人的には楽しい時間を過ごせました。今後も後援会長野支部の活動が保護者の交流・情報交換の場であり続けることを祈願し、退任の挨拶とさせていただきます。

皆様、ご協力有難うございました。



編集委員 長野 将 大日方 豊子 山岸 直樹 徳武 靖恵 早川 和利 小林 一樹